

## 第 27 回議会運営委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 3 年 2 月 19 日 (金曜) 午前 9 時 30 分 開会		
	休憩 9:41-9:42、10:30-10:40、		
	午前 11 時 24 分 閉会		
会議場所	役場 3 階 第 1 委員会室		
出席委員 氏名	委員長 梶澤 幸治 副委員長 中村 和宏 委員 正村紀美子 委員 鈴木 健充	委員 立川 美穂 委員 渡辺洋一郎 委員 常通 直人	
欠席委員 氏名			議長 早苗 豊
説明等に 出席した 者の氏名	町長 手島 旭 副町長 佐野 寿行 総務課長 安田 敦史		
事務局職員	事務局長 仲野 裕司	総務係長 佐藤 史彦	

### 『会議に付した事件と会議結果など』

#### 1 開会

- 委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

#### 2 議件

##### (1) 調査事項

- ア 令和 2 年茅室町議会定例会 12 月定例会議の運営について
- イ 議会だより 3 月号の編集について
- ウ 白樺学園高校との包括連携事業の振り返りについて
- エ 第 1 回議会モニターミーティングの振り返りについて
- オ 議会報告と PTA との意見交換会のまとめについて
- カ 「読みたくなる議会だより」について

資料 1  
資料 2  
資料 3  
資料 4  
資料 5-1・2  
資料 6

#### 3 その他

- (1) 次回委員会の開催日程(予定)について
- (2) その他

#### 2 議件 (1) 調査事項

- ア 令和 2 年茅室町議会定例会 3 月定例会議の運営について 資料 1
- ・ 総務課長 : 資料 1-1 説明。
- ・ 中村委員 : 資料 1-2 説明。
- ・ 委員長 : それぞれ提案予定事項について説明あったが、各案件について質疑は。

- ・(質疑なし)
  - ・委員長：次に審査方法について。
  - ・中村委員：資料 1 説明。
  - ・委員長：質疑あるか。なければ以上で決定する。
- (質疑無し)
- ・委員長：記載のとおり決定したい。

イ 議会だより 3月号の編集について

**当日資料 2**

- ・立川委員：資料説明。
  - ・委員長：質疑は。
- (質疑無し)
- ・委員長：このまま編集を続ける。

ウ 白樺学園高校との包括連携事業の振り返りについて

**資料 3**

- ・事務局長：資料説明。
- ・委員長：しっかりと振り返り今後の事業の参考とする。まず（1）の点、協定の趣旨に沿った内容であったか、について。
- ・委員長：最後の（5）にもつながる話であるので、その項目で改めて協議する。昨日、生徒からの感想も届いていた。内容としては貴重な体験ができたなどの感想が多くかったなどの意見が多くかった。目的達成になっているのではないかと考える。次に、（2）対象者、人数について。

(特に意見無し)

- ・委員長：学校要望に沿った内容であったということで。次に、（3）開催までの準備は適切だったか、について。今年は実際に会っての調整は厳しかったが、担当教諭と事務局との調整、8月には直接の協議も設けた。今後の進め方にも関わるが、意見をいただきたい。
- ・正村委員：委員会内で振り返りを行ったが、当日、初めて生徒に会い、具体的に事業を進めるわけであるが、できれば事前に生徒とコミュニケーションをとれるようなこと。対面ではなくとも、どのような考え方をもって臨もうとしているのか、目的の共有ができるようなことがあると、より事業が深まるのではないか。事前の準備等々については、正副、事務局を通して学校と行ってきたが、よりよいものということであれば、そのあたりも重要である。
- ・委員長：ほかになければ、（4）実施体制・対応について。
- ・正村委員：1年生、3年生ということで学年が違っていた。なかなか同じ内容を伝えていくということが、もう少し噛み砕いた方が、1年生はより理解しやすかったのかもしれない。資料のあり方ということも、今後検討していくことで、よりよい事業になるのではないか。
- ・立川委員：対応の体制は2年目でもあり、非常によく割り振りができた。特に体制、対応についての課題はなかったと考える。
- ・委員長：次に（5）今後の展開、展望について。体制のあり方によっては、今出さ

れた意見、改善できるようなことも含まれるのではないかと思うが、現状は正副、事務局が中心となっているが、この体制を改善することで、さまざま充実した事業になっていく可能性もあるが、この点について意見をいただきたい。

- ・正村委員：体制について、議員が特に関わるというよりは、授業の一環としての事業であるので、学校側の考えが大きく反映されるもの。そういう意味では、学校としてどのようなところを着地点にしていくのか学校の考えがあるだろうから、その点は尊重して、どうしていくのか、今までのような形で確認しながら進めていけば良い。
- ・立川委員：説明資料に様々な文言があるが、問い合わせを投げかけた際に、首をかしげる子もいたりした。制度の習得状況の格差、我々が知らなければ、投げかけに影響する。子供たちの学習状況を議員にもいただけると生かせるのではないか。
- ・鈴木委員：進め方として、子供たちに質問を投げかけてもここで説明を受けただけでは質問も出てこないだろう。事前に、質問事項を用意しておき、それに議員側もきちんと答えていくなど、事業としての中身の充実を図っていくようなこと。終わってから、現場の先生と議員との意見交換も大事である。
- ・委員長：これまで担当教諭とは非公式に振り返り、情報交換は行ってきている。今の意見を実施するとなると、学校側との調整、特に議場体験は限られたフィールドワークの時間を見てているものである。事前準備となれば、当然、学校側の授業の時間を拡張するということも必要になってくる。学校側にも伝えていかなければならない。現在は、正副、事務局で学校側と協議しているが、多くの議員が関わることで解決できることもあるかもしれない。どういった体制が好ましいか、一度振り返って、議会としての体制を考えてみたいが。
- ・中村委員：5年間の事業を展開してきた。事前の準備の体制が重要。また正村委員の発言にもあるように、社会科の授業の中で行っていることであり、4日間の日程を組んで行なってきている。学校側がこの事業をとおして生徒にどこまでの学びを求めているのか、そのあたりはあると思う。その点は確認していかなくてはならない。正副、議運の中でこの事業の今後を整理しなくてはならないが、担当制のようなこと、議運以外の方々にも学校との協議に入ってもらうなどのことが出来ないのか、将来的に。全議員が取り組めるような方向性を見出していく必要があるのではないか。
- ・委員長：議運以外の議員の関わりについての意見であった。ここで両委員長から振り返りの内容を。
- ・正村委員：学年によって説明の仕方が難しかった。また学校側が求めている達成度がどこなのか、議員にも理解があると良いのではないか。そうしたことも含めて、事前に生徒から質問内容を求め、それにこたえていくというような方法、また担当教諭との事前準備などが必要という声であった。
- ・立川委員：1年と3年では理解度に差があったということがあった。肩の力を抜いて臨めるようなことも必要。学校授業に協力するだけでなく、議会側にも得られるものが必要であるが、互いに負担になってしまるのはよろしくない。まずは議会、議員を身近に感じもらうため、継続していくことが重要というのは一致した

意見。

- ・委員長：学校側との確認は毎年行うことである。事前の協議は重要であるが、学校側の時間の確保も問題点になることから、担当教諭としっかりと協議していくことが必要。継続するというところは重視してやってきた。議会が5年間続けてきたが参加する生徒は初めてというところがポイント。フィールドワークの中で行っているものであり、学校としての目的達成を考えると一定程度の満足はされているのかと思う。今の意見を参考にしながら、今後の詰めの中で進めたい。それで、体制について、先ほど中村委員からの意見になったような議運以外の議員の協力をいただき、自分事として臨んでいくようなこともあり得るが。
- ・立川委員：我々も5年間継続してきて様々な知見が蓄積されてきているので、議運以外の議員が関わっても良いのではないか。
- ・正村委員：これまでの体制で不足はない。提案の内容については理解するが、今、議会全体の目的として包括連携の目的を自分事として捉えるためというが、全議員、理解しているのではないか。振り返りにも積極的な意見が出てきている。学校側のできるものをどう尊重しながらこの事業を継続していくかということであるので、学校側との協議は今までの体制で良い。
- ・立川委員：交渉等はこれまでの体制で良いが、さらに理解を深めるために協議回数を増やすことが良いとすれば、議運以外の議員でも十分に担えるのではないか。
- ・中村委員：高校生との意見交換にもいろいろある。すぐに採り入れるということではなくすべての議員の声を聴いていかなくてはならない。5年間の中で議員皆が重要性を認識していると思う。担当制云々ということだけでなく、今後、都度課題として議論をしていければと思う。
- ・鈴木委員：学校側との協定事業であり、学校の授業の一環として成り立っているもの。学校の方針、担当教諭がどこまで望んでいるのか、まずは学校の考え方を伺つて、そこをクリアしてから、議会側としての準備をしていければ。
- ・委員長：私見であるが今の事業は満足していると思う。これは学校側からのアプローチがあつて協力しているものである。ただ、連携事業はそれではない。例えば、ICTに長けた先生にGIGAスクールの講師として来てもらうなども連携事業になるのではないか。また、議会と学校の信頼関係の中で進めてきているが、担当制の話もあるが、基本的には議長、議運正副がメインになるが、事前準備、協議を担当議員でという意図であったかと思う。今の状況に満足することなく、他の議員からも意見をいただきながら進めることができるのでないかと思うが、改めて、体制について従来通りで良いのか、どうか。今後も体制について議論をしていくということで収めたいと思うが。
- ・渡辺委員：連携事業の一つとして議会体験ということである。テーマなどは基本的には議運が中心となって行うのが良いと思うが、先ほどの委員長の意見のようなやり方も方法である。固まる前に全協で意見をもらうなどの方法もある。
- ・常通委員：同様の考えである。基本的には議運が中心でということ。また全協でも意見が言えることから、それで良い方向に行ければと。
- ・委員長：議運が中心になるが、全議員で進めていくということ、体制づくりは必要

であるが、先ほどの提案は、丸投げでなくてサポートしていただくということである。今後、議論をしながら共有できればと思う。今後の担当教諭との振り返りの中でも議論をしていきたい。

エ 第1回議会モニターミーティングの振り返りについて

資料4

- ・事務局長：資料説明。
- ・委員長：レジュメにそって進める。（1）開催日程、時間等について。従来より遅くなったものであるが。
- (意見無し)
  - ・委員長：次に（2）開催手法、テーマ等について。
  - ・委員長：開催手法はオンラインとして開催したが。今後、平時においても使える手法かもしれないが。
  - ・立川委員：特に問題なかった。事前に環境調査を行ったことも良かったし、体験できたことも良かったという意見もいただいていた。
  - ・委員長：事前の準備もあってうまくいったのではないか。次に、グループ進行・意見交換、記録・集約、全体進行など。
  - ・立川委員：議会としても芽室高校とのZoomミーティング経験もあり、議員もゆとりがあり、各自適切に役割を果たしていた。グループでの意見の記録の共有では今後も研究課題が残る。
  - ・正村委員：グループ進行のところで意見の引き出し方について、ファシリテータのとして能力を高めていくことが必要と考える。これからも様々研鑽を積んで、レベルアップできればと。
  - ・委員長：グループ内での議論の共有、振返りは今後もしっかりとやっていくことが必要。担当は大変であろうが。次に、（3）の開催通知、集約等について。
- (特に意見無し)
  - ・委員長：（4）次回に向けて。現時点では6月を予定している。この考え方についてはどうか。
- (意見無し)
  - ・委員長：第2回は6月に開催する。次に、内容であるが、例年であると1年間を通しての感想などを述べ合う場であるが、今年度はコロナもあり、なかなか難しかった。6月はどのような会議にしていくべきか。
  - ・委員長：開催手法は基本的には集まる会議で進められたと思うが、コロナの感染状況によっては、オンラインも視野に入れなければならない。基本的には1年間モニターをやっていただいた感想、また1回目の意見に対する委員会としての対応や考え方などを発表していく場とするか。
  - ・常通委員：基本的には1年間モニターをやっていただいた集約に対する議会としてお返しをするということになる。また、モニターの感想も。
  - ・委員長：基本的には1年間を振り返ってということ。今回いただいた意見をお返していくということにしていきたい。それで、今回の意見、資料4-2にまとめていけるが、これらについてどのように取り扱っていくか。両委員会で所管の対応とし

て分けていくようなことも考えられるが、いかがか。また、コロナ対策と、議会だよりに関する意見がある。議会だよりに関する意見は、これらを踏まえて各委員会でワークショップをやっていただいているので、それらのまとめに含まれていると考える。両委員長が納得されているのであれば、両委員会間で、コロナ対策の意見は区分整理をして次回議運の資料としていければ。

#### オ 議会報告と P T Aとの意見交換会のまとめについて

資料5-1・2

- ・事務局長：資料説明。
- ・委員長：各班、書式が異なる点もあったということである。今回はコロナの中で現状を伺うという点もあり、深堀できないこともあったかと思う。改めて、記録の仕方など、統一化について。
- ・常通委員：対応の部分について抜けていたり点があった。芽小について、全て「意見として」ということで加筆いただければ。
- ・立川委員：その場で意見交換の仕方が異なるが、空欄の点は、「意見として」ということで良いのではないか。あえて「QandA」にしなくても良い。
- ・委員長：今回はそのような形で整理したい。また対応について、各委員会で調査に生かしていくこともあるが、この取り扱いについては、厚生文教所管が多いが、両常任委員長の間で分けていただく、対応についても整理するということを進めたいが。また、できれば全協でも全体での振り返りをしたいと思うが。
- ・委員長：意見をまとめてできた時点で、全協で全議員で振り返りをしていきたい。この後、3月12日での全協開催を想定しているが、少し期間が短いか。
- ・立川委員：一度、委員会内での共有も必要と考える。
- ・委員長：短期間での提出は厳しいかと思うが、3月の最終日に全協を予定したいと考えるので、その際に協議できればと。各委員会内での協議結果は、議運には上げないで、全協で報告していただければよいかと考える。

#### カ 「読みたくなる議会だより」について

資料 6

- ・事務局長：資料説明。
- ・委員長：次年度に向けて議論をというところで共有してきたもの。各委員会内でワークショップを行い、その内容を資料としている。目標としては令和2年度内に方向性をまとめて、令和3年度から生かせるものは生かしていくたいと考えるが、この意見をどのように取り扱っていくのか。忙しくなるが、計画したものであるので、しっかりと議論をしたい。資料6参考からポイントを絞っていけるかと思うが、この中からどういった形で整理していくか。
- ・中村委員：モニターからの意見、両委員会からの意見がまとまっている。これを今後の議運で何度かの会議でまとめていくということで、その前段で、どう取り扱うか、協議ポイントなども考えていかなくてはならない。その後に再度議運へ諮っていくことになるかと思うので、渡辺委員などを中心に、議論の道筋を整理していただくような時間を取り、再度、議運で提案していくことでどうか。活性化策にも関わる部分であるが、できるものを議会だよりに反映していくという

ことになるかと思う。渡辺委員、副議長、自分も入って3人で、まずは協議をしたいと考えるが。

- ・委員長：丸投げではないが、この3人で前段協議をしてからという意見であった。
- ・渡辺委員：一定のまとめがされたということは、大きな前進になったと思う。この中から、出来る・出来ない、優先順位や予算措置など、一度、中村委員提案のとおり整理した中で、再度提案できればと。
- ・委員長：継続的に毎月発行を行うことは両委員会から出ている意見。今後、渡辺委員中心に議論を進めていただければと。
- ・立川委員：確認である。総務経済のまとめがP3にあるが、軽微な見やすさや改善は必要という認識で良いのか。「現状の議会だよりを維持する」というところの確認を。
- ・委員長：今後、渡辺委員を中心にということであるので、その点も確認しながら進めていくことで良いのではないか。
- ・正村委員：編集体制について、専門委員会を作るのは難しいということ。モニターに参加してもらうような意見もあったが、協議をした結果、難しいのではないかということで現状維持。発行回数も様々意見があったが、12回を維持ということであった。
- ・委員長：その点も含めて、渡辺委員を中心として議論を願いたい。

### 3 その他

#### (1) 次回の委員会開催日程について

- ・3月4日（木）午前9時30分としたい。

#### (2) その他

- ・無し。

以上をもって委員会を閉会する。

傍聴者数	一般者	1名	報道関係者	1名	議員	0名	合計	2名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和3年2月19日

議会運営委員会委員長 梶澤 幸治